

現状分析

1 副都心の考え方に係る経緯

浜北地域は、新市建設計画において、都市機能集積ゾーンに設定され、「都心機能を補完する副都心として、業務機能・中枢都市機能の誘致・育成や各種産業振興を推進していく地域」と位置付けられています。また、旧浜北市の浜北市総合計画審議会において、副都心に関する協議が行われており、平成 17 年 3 月には「副都心に関する基本的なあり方・考え方」が取りまとめられています。

こうした背景をもとに、「第 1 次浜松市総合計画」策定に当たっては、都市空間形成に関する基礎調査を実施し、副都心としての役割や必要性を改めて確認するとともに、都市経営戦略の中では「浜松型コンパクトシティ」の概念を示し、遠州鉄道鉄道線浜北駅周辺を副都心として位置付けました。

副都心の考え方に係る経緯

新市建設計画（天竜川・浜名湖地域合併協議会）【平成 16 年 12 月】

- ・ゾーン別整備の方向において、浜北地域を都市機能集積ゾーンと位置付け、都市機能を補完する副都心の整備を進めることとした。

副都心に関する基本的なあり方・考え方（浜北市）【平成 17 年 3 月】

- ・『都心機能の補完と行政機関等の設置』と『豊かな自然・生活環境を備えたまちづくり』により、豊かな自然・生活環境を備え、都心機能を補完・強化する地域としていくものと定義した。

第 1 次浜松市総合計画（浜松市）【平成 19 年 3 月】

- ・副都心を都心に次ぐ高い拠点性を有する地域とし、遠州鉄道鉄道線浜北駅周辺を対象地域とした。

【参考】浜松市都市空間形成調査研究報告書（浜松市企画課）【平成 18 年 3 月】

- ・副都心を都心に次ぐ高い拠点性を有する地域とし、想定される地域を遠州鉄道鉄道線浜北駅周辺とした。

以下に、浜北副都心の考え方に係る計画、報告を整理しました。

新市建設計画（天竜川・浜名湖地域合併協議会）【平成 16 年 12 月】

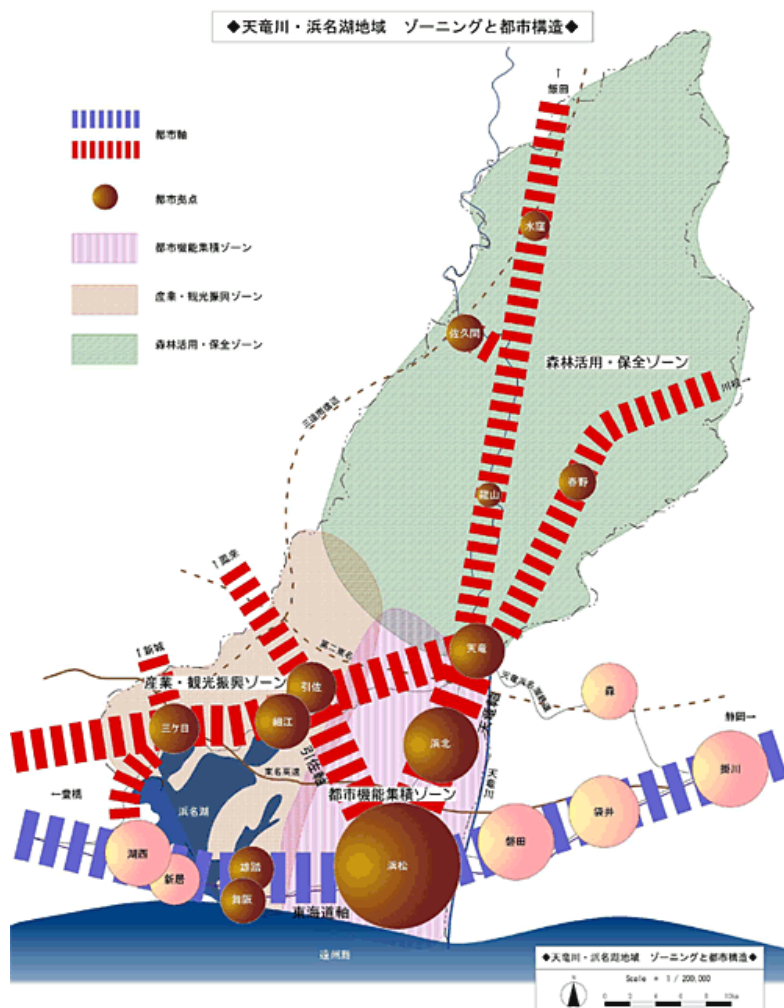
ゾーン別の整備方針

ゾーン区分は、天竜川下流の低地と三方原台地から構成される「都市機能集積ゾーン」、浜名湖沿岸の丘陵地を中心とした「産業・観光振興ゾーン」、天竜川中流域の中山間地からなる「森林活用・保全ゾーン」であり、各ゾーンは、各地域の特色を最大限に活かしながら、ゾーンの役割にもとづいて相互の連携を図り、新市全体の一体的発展と拠点性の向上を目指す。

都市機能集積ゾーン

- ・業務機能や中枢都市機能（学術・研究、高次サービス、金融、国際などの諸都市機能）のさらなる誘致・育成
- ・都心機能を補完する副都心の整備
- ・将来の第二東名自動車道の開通効果なども活用しながら、浜松地域テクノポリスなどへの先端技術産業のさらなる集積と産学官連携による知的クラスターの形成
- ・都市近郊型農業の振興や都市型観光の拠点形成の推進

図 2 天竜川・浜名湖地域 ゾーニングと都市構造



副都心に関する基本的なあり方・考え方（浜北市）【平成 17 年 3 月】

浜北副都心の目指す方向

浜北副都心は、(1)「都心機能の補完と行政機関等の設置」、(2)「豊かな自然・生活環境を備えたまちづくり」により、豊かな自然・生活環境の備え、都心機能を補完・強化する地域である。

(1)都心機能の補完と行政機関等の設置

浜北副都心は新たな都市機能の創出や既存機能の高度化を図っていく役割や行政機能の一層の充実を図っていく役割が期待されていることから、新市中心部の都心機能を補完するための都市機能の強化が必要である。

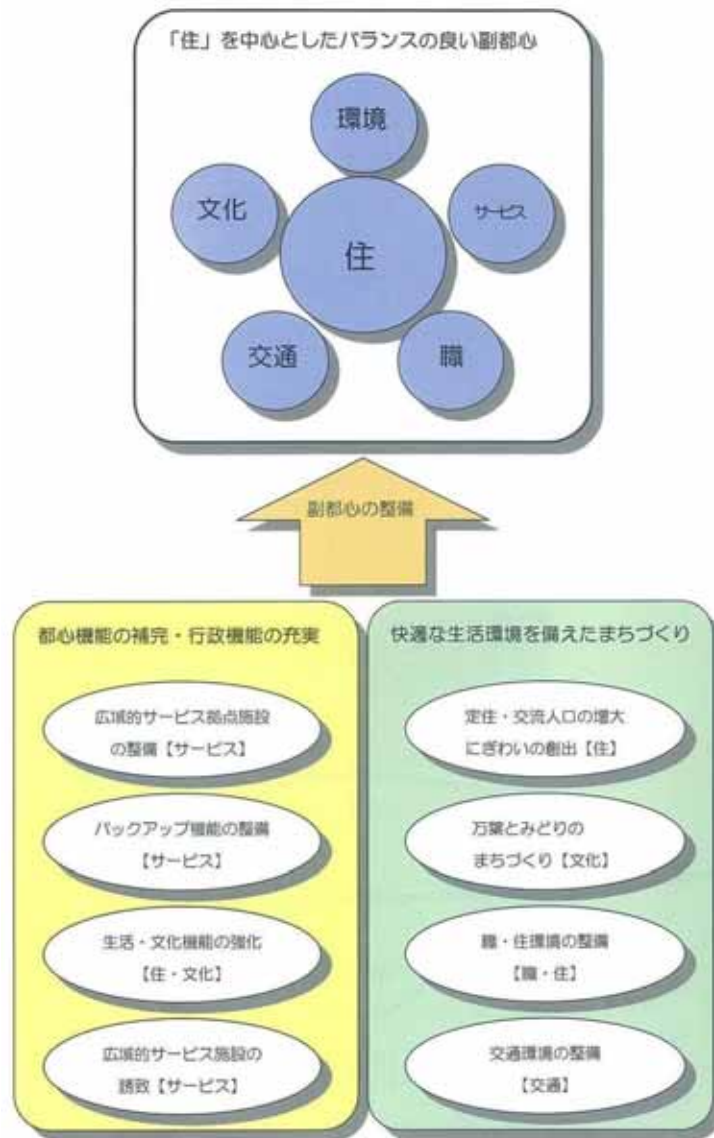
取組事業	説明
新市の行政機能の一部の設置あるいは広域的なサービスの拠点整備	新市内外に新市のアイデンティティの情報発信を進めていくことで、新市の一体性を醸成していくとともに、新市のまちづくりの方向の一つである「世界都市の実現」を図っていく上での新市の多様な情報の発信拠点を設けていく。
緊急時におけるバックアップ機能の整備	浜北副都心が新市の中枢的な行政機能のバックアップ体制を整備していくことで、安心・安全なまちづくりを進めていく。
都心部の都市機能を補完する生活・文化（スポーツ含む）機能の強化	浜北市は都会的な生活文化や歴史的な文化を併せ持っており、新市中心部の商業機能の補完をしていくとともに、新市の歴史文化の振興等で中心的な役割を担っていく。
北遠地域、引佐郡 3 町及び浜松北部地域をカバーする広域的なサービスを提供する国・県等の施設の誘致	公共サービスも、新市都心部に過度に集中させることなく浜北副都心が分担していく必要が出てくる。

(2)豊かな自然・快適な生活環境を備えたまちづくり

浜北副都心は、「住、すなわち住むこと」を基本に置き、自然と共生したまちづくり、快適な生活環境の充実、産業の発展、文化の振興などにより創出される住みやすさが期待されている。

取組事業	説明
定住人口及び交流人口の増大、にぎわいの創出	にぎわいの創出の取り組みを進めていくことで、新市建設計画のまちづくりの方向である「自然環境との共生」したまちづくりや「市民主体のまちづくり」、「産業の活性化」、「世界都市の実現」につなげていく。
「万葉とみどりのまち・浜北」によるまちづくりの推進	万葉をキーワードとしてまちづくりに取り組むことで、新市建設計画のまちづくりの方向である「分権型のまちづくり」や「自然環境との共生」の推進にもつながり、万葉をキーワードとして、新市の一体性を醸成していく。
住みやすさ、働きやすさなど、都市住民として享受できる住環境の整備	浜北副都心においても、職住が近接した立地を大切にしながら、市民と事業者双方にとって快適な環境を築いていく。
超高齢社会を迎え、生きがいの創出とともに、自動車に頼らない公共交通機関・交通手段の整備	副都心としての役割を果たすため、新市の中央部に位置し、新市の各地域等との連携が容易であるという地の利を生かし、将来に向け、公共交通機関や交通手段等の整備を進めていく。

図3 浜北副都心整備のイメージ



合併前の浜北副都心検討の経緯

- H15.7 浜北市制施行40周年記念式典での浜松市長の祝辞
 「浜松市に次ぐ大きな都市であります本市を副都心として位置付けてまいりたいと考えております。」
- H15.11～H16.8 浜北市総合計画審議会（4回開催）
 副都心を含む新市建設計画について協議
- H16.6 第9回合併協議会における、副都心について現在の考えを確認したいという質問に対する浜松市長の発言
 「副都心の整備を進めるということは、浜北市の部分副都心として整備を進めるという意味である。」
- H16.8～H16.9 浜北市総合計画審議会（2回開催）副都心に関して協議
 「副都心に関する基本的なあり方・考え方」のとりまとめ
- ・副都心（新市建設計画）については、浜北市議会の「県西部政令指定都市構想研究会」及び「政令指定都市問題等調査研究特別委員会」において協議された。

第1次浜松市総合計画（浜松市）【平成19年3月】

拠点の形成

都市経営戦略の都市空間形成の考え方において、浜松型コンパクトシティを概念として「拠点の形成」の基本的考え方を示し、副都心を都心に次ぐ高い拠点性を有する地域とし、遠州鉄道鉄道線浜北駅周辺を対象地域とした。

区の将来像及び区別計画

基本構想において、浜北区では、「副都心 夢人集う 浜北区 ~夢をはぐくむ、みどり豊かな住環境の形成を目指します~」を区の将来像としている。

そのため、都市経営戦略の区別計画では、魅力ある副都心の形成や歴史・文化を活かした万葉のまちづくりなど、区の個性発揮に向けた施策をはじめ、環境保全や地場産業の振興に取り組み、住みたいと感じられるまちづくりを目指すこととしている。

特に、副都心の形成に向けては、都心に次ぐハブ機能を持つ地区として、浜北駅を中心とする駅周辺のにぎわいの演出、商業機能や行政機能、文化機能などの都市機能の充実について検討を進めることとしている。

2 浜松市の概要

2-1 現状

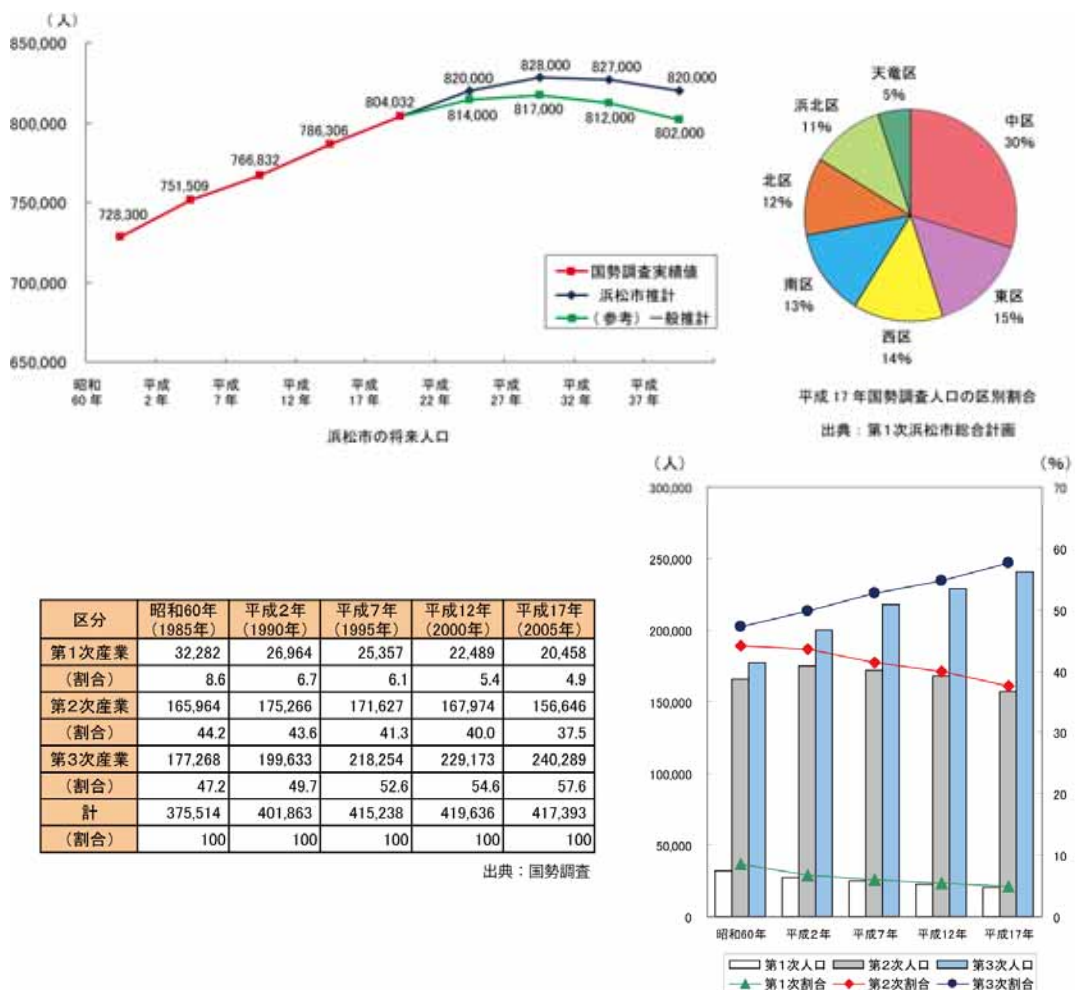
浜松市は、12市町村の合併（平成17年7月）や政令指定都市への移行（平成19年4月）、平成27年頃をピークに減少すると推測される人口動向、少子高齢社会の進行など大きな環境の変化に直面しています。

また、土地利用では、市街化の拡大と市街化調整区域の宅地化が進んだ結果、住宅と農地や工場が混在する地域が見られ、優良な農地の維持や新たな工業用地の確保、自然環境の保全が課題となっています。

さらに、多様な市民ニーズに迅速に対応できる行政サービスの充実や地域特性に配慮した都市づくりが求められる一方で、政令指定都市としての商業、行政、情報などの都市機能の充実がより一層求められています。特に、商業では、中心市街地での大型商業施設撤退によるにぎわいの低下が見られる反面、郊外への相次ぐ大型ショッピングセンターの進出による新たな拠点の形成が起っています。

このように、浜松市は、様々な特性を持つ地域（拠点）が存在しているため、この地域特性を見据え、最大限に活かしながら、市全体の一体的発展と拠点性の向上を進めていくことが重要になっています。

図4 浜松市の人口と産業の動向



2-2 環境分析（SWOT 分析）

SWOT 分析から浜松市の都市空間形成上の課題を整理すると、内部環境において、地域の多様性が生み出す都市活動などが「強み」として見出せるものの、市域の拡大に伴い、都市の一体性確保への対応や大都市としての公共交通や道路網の整備不足などの「弱み」を持っていることが分かります。

こうした「強み」や「弱み」は、どちらも浜松市の特徴であるため、「強み」（地域の多様性等）を活かし、「弱み」（都市の一体性確保等）に対応していくことが必要です。

そのためには、都市空間形成において、市中心部や旧 11 市町村の中心部、交通結節点などの既存ストックを「拠点」として設定し、地域ごとの特性（都心、副都心、交流拠点、生活拠点）に応じて機能の集積を図っていくことが必要です。

表 1 SWOT 分析（市域全体）

	機会 (OPPORTUNITIES)	脅威 (THREATS)
外部環境	<p>【トレンド】</p> <p>経済・文化活動のグローバル化 環境（循環型社会）に対する意識の高まり 市民の自治意識の高まり 市民ニーズの多様化・高度化 三遠南信地域の中心都市としての都心機能の充実 分権型社会の進展</p> <p>【市民ニーズ】</p> <p>子どもを安心して育てることができるまち （子育て支援に対するニーズ、保育サービスへの高いニーズ） 保健福祉医療が充実した安心して暮らせるまち 防犯や防災体制がしっかりした安全なまち 起業家や新技術が育つ産業が活発なまち 道路網や公共交通網が充実した移動しやすい便利なまち 市域の拡大に伴う市民の行政サービス低下に対する不安</p>	<p>人口減少・少子高齢社会 労働人口の減少 ニートの増加や団塊の世代の大量退職 企業の国内外への流出 世界的な技術開発競争 地球温暖化などの世界的な環境破壊 エネルギー問題 国・地方公共団体の長期債務残高の増加（厳しい財政状況） 都市間競争の激化</p>
内部環境	強み (STRENGTHS)	弱み (WEAKNESSES)
	<p>ものづくり産業の集積 世界一の楽器産業の集積 特色ある農林水産業 女性の高い就業率 地域の多様性が生み出す都市的活動や個性あふれる祭り・伝統芸能などの文化活動 地域特性に応じた特例措置の実施 ユニバーサルデザイン（UD）によるまちづくり 広大な森林や天竜川、浜名湖、遠州灘などの豊かな環境資源 音楽のまちづくり 海外経験を積んだ市民、経済活動を支える数多い外国人市民</p>	<p>技術・技能者の減少と高齢化 少子化（年少人口の減少） 都市の一体性確保への対応 中心市街地の求心力の低下 北部地域の人口減少 大都市としての公共交通や道路網のネットワーク不足 既存公共施設の維持に要するコストの増大 荒廃が進む森林 生活雑排水による猪鼻湖の水質汚濁</p>

< 都市空間形成のための要因分析と方策 >

SWOT 分析による各要因分析での方策を以下に整理した。

機会×強み 成長戦略（都市の一体性の確保、分権型都市の形成、ユニバーサルデザイン）
地域の多様性が生み出す都市的活動や個性あふれる祭事・伝統芸能などの文化活動の活用
地域特性に応じた拠点の形成（副都心の形成）
だれもが住みやすいユニバーサルデザインのまちづくりを基本とする。

機会×弱み 改善戦略（都心を補完する副都心の形成、分権型都市の形成）
都市の一体性の確保への対応
広大な市域における市民の利便性の向上
北部地域の人口減少

脅威×強み 回避戦略（都市の一体性の確保、ユニバーサルデザイン）
国・地方公共団体の長期債務残高の増加（厳しい財政状況）の中、既存のストックを最大限に活用することにより、必要性や発展可能性に応じた効果的かつ効率的な投資を図る。

脅威×弱み 撤退・改善戦略（都市の一体性の確保）
大都市としての公共交通や道路網の整備不足には、計画的に対応し、都市の一体性の確保を図る。

このように、浜松市において、都市の一体性の確保や分権型都市の形成のためには、既存のストックを最大限に活用した副都心の形成が必要と考えます。

3 副都心地域(浜北区)の概要

3-1 現状

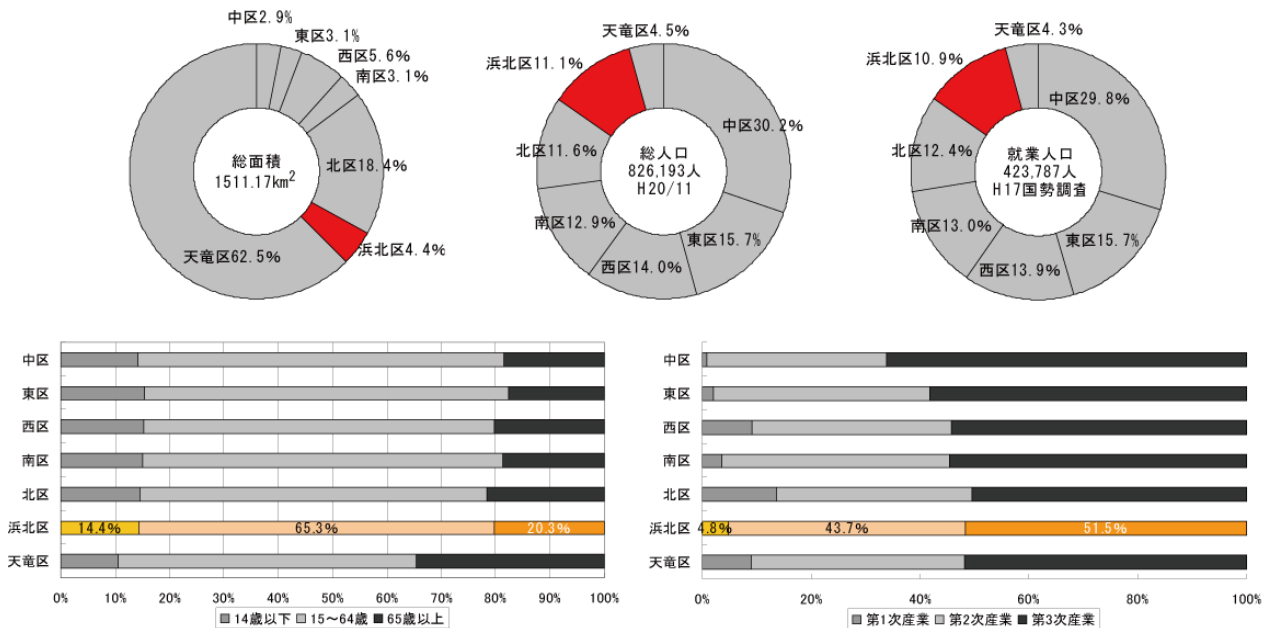
浜北区は、地理的に浜松市のほぼ中央に位置し、区域の多くを平野が占めています。東に天竜川、西に三方原台地、北は山地と豊かな自然環境に恵まれるとともに、輸送用機器を中心とする製造業をはじめ、植木産業や柿、梨などの生産が盛んな地域です。

また、遠州大念仏や遠州はまきた飛竜まつり、浜北植木まつり、浜北万葉まつりなど、本区の特徴を表す伝統文化や催事が行われています。

本区と都心とを結ぶ遠州鉄道線に沿って、都市化が進み、近年、郊外においても浜松地域テクノポリスの中核としての「浜北新都市開発地区」、「平口地区におけるスポーツ施設」、「新東名高速道路及び(仮)浜北IC周辺整備」などの大規模な開発が進められています。

特に、遠州鉄道鉄道線浜北駅周辺は、文化・行政・商業機能などを持つ独立した市街地を形成しており、北遠地域の重要な商圈及び通勤・通学圏となっているなど、高い拠点性を有し、中心市街地の都市機能を補完する役割を担っています。

図5 浜北区の統計



出典：国勢調査（平成17年数値）、総人口は平成20年11月現在

< 浜北区の特性 >

都市基盤

- ・区内の市街地は、狭あい道路が多いなど都市基盤がせい弱であり、人口40～60人/haの低密度な状況である。
- ・遠州鉄道鉄道線浜北駅周辺は、副都心としての役割を担っており、市北部の行政機能、商業業務機能、文化機能、都市居住機能などの集積が期待される。
- ・浜北駅前市街地再開発事業によって「なゆた・浜北」が建設され、現在では、大型商業施設も進出しているが、基本的に道路などの都市基盤がせい弱であるため、土地の高度化が進行していない。

居住

- ・区内の市街化調整区域のうち、北部丘陵地域を除く地域は、農地と集落が混在した低密度な土地利用が広がっている。この地域は、区人口の6割を超える区民が居住しているため、一定水準の生活環境を確保していくことが望まれる。

産業

- ・区内の農業は植木づくり等が盛んであるが、農業後継者不足や収益性の低下などの問題を抱えており、耕地面積が減少している。
- ・既存産業の振興とともに、新東名高速道路整備などによる交通利便性の高まりを活かした新たな産業拠点の形成が期待される。

交通

- ・区内には、浜松市街地から放射状に伸びる幹線道路（浜北米津線、浜北馬郡線など）と郊外部を連絡する環状道路（国道362号など）があるが、産業拠点や地域の中心となる地区などを結ぶ道路網及びバス交通などの交通基盤の充実が望まれる。
- ・区内には、遠州鉄道及び天竜浜名湖鉄道があるが、自動車利用のみに依存しない交通体系の確立に向け、鉄道駅を中心としたアクセス性や乗換え機能の充実が期待される。

公園・緑地

- ・区内には街区公園などの計画・整備が少なく、身近な公園の整備が期待される。
- ・区内の貴重な自然資源として天竜川、馬込川、御陣屋川などの河川が流れており、天竜川河川敷の都市緑地整備や御陣屋川の親水護岸整備が期待される。

図6 市街化区域と農業振興地域の状況（市中心部）

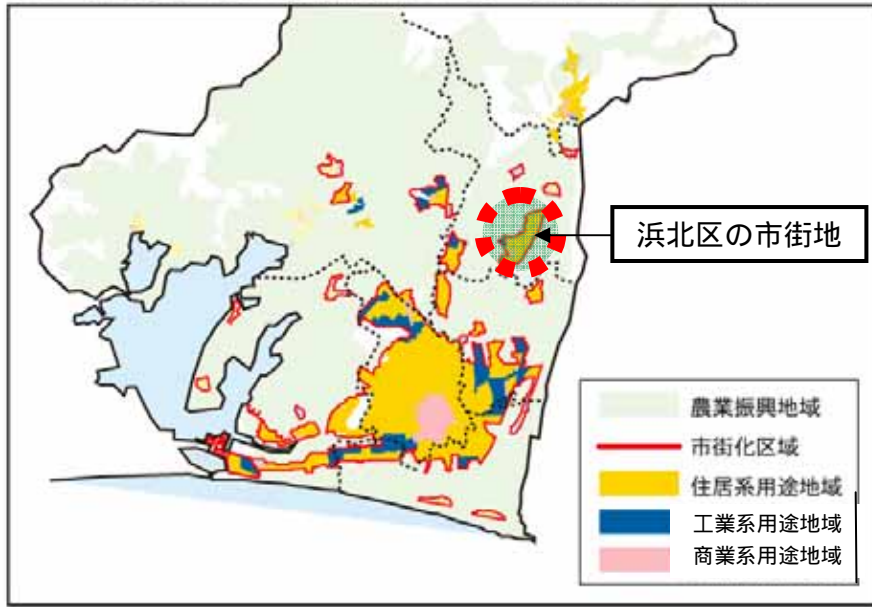
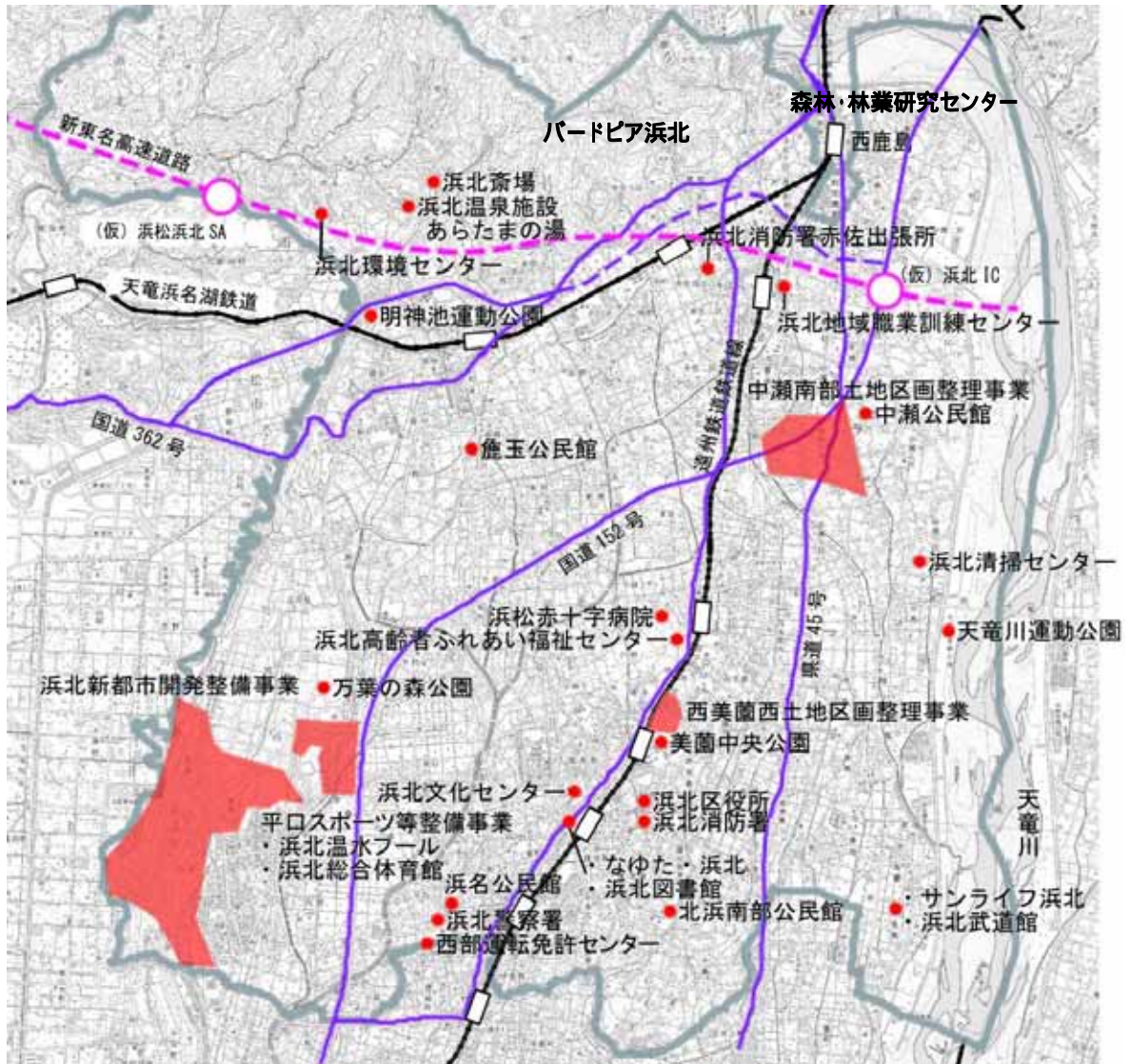


図7 浜北区の主な施設の現状



3-2 環境分析（SWOT 分析）

浜北区の外部環境の機会 - 脅威と内部環境の強み - 弱みを下表に整理します。

表 2 SWOT 分析

	機会 (OPPORTUNITIES)	脅威 (THREATS)
外部環境	<p>副都心形成に伴う都市機能の充実 インターネット、デジタル放送などの情報化の進展 持続可能な循環型社会の実現や環境保全に対する関心の高まり 多様な市民のニーズや課題の克服に向けた自治体の役割の増大 まちづくりに関する NPO や地域活動の活発化 バスなどの公共交通に対する区民の声 地域活性化に向け高まる観光産業の注目度 大交流時代の到来による国際化の進展 福祉、健康に対する住民の関心の高まり 放課後児童会入会希望者の増加と公共施設内への建設要望の高まり</p>	<p>少子高齢化の進展 都市化の進展や価値観の多様化による地域の連帯意識や相互扶助意識の希薄化 市財政環境の悪化による影響 市域の拡大による情報格差 東海地震や集中豪雨の発生のおそれ 深夜営業店舗の進出に伴う青少年への悪影響</p>
内部環境	強み (STRENGTHS)	弱み (WEAKNESSES)
	<p>新東名関連事業や新都市開発事業による発展の可能性 地域の伝統、産業等に関する事業の存続 自治会・町内会の自治力や地域団体の組織力が強固 植木産業や柿・梨などの農業が盛ん 浜北人、万葉ゆかりの万葉の森公園など独自の文化、歴史に恵まれた地域 天竜川、県立森林公園など豊かな自然環境 大型商業施設の立地 宅地開発等による人口の増加</p>	<p>企業用立地用地が少ない 浜北駅周辺のにぎわいの欠如 農業後継者の不足と遊休農地の増加 区の中心市街地や東西交通の道路整備率が低い 身近なところに利用できる公園が少ない 公共交通のネットワークが不十分 地場製品の PR 不足 老朽化した公共施設への対策</p>

< 浜北副都心形成に向けた要因分析と必要事項（キーワードの設定） >

機会 × 強み 成長戦略

新東名関連事業や新都市開発事業による発展機会を利用した都市基盤充実

【にぎわい・出会い】

市街地の都市基盤整備と計画的な土地利用誘導が必要である。

浜北人、万葉ゆかりの万葉の森公園などの独自の文化、歴史に恵まれた地域特性を活かした観光産業の充実【文化の創造】

自然環境などを活用しながら、身近なオープンスペースを確保していくことが必要である。

景観は、豊かな里山風景や美しい田園風景が残されており、浜北森林公園や万葉の森公園などの公園施設が充実しており、こうしたゆとりある緑の空間を今後も保全していくことが求められる。

機会 × 弱み 改善戦略

遠州鉄道鉄道線浜北駅周辺のにぎわいづくりによる副都心の顔づくりの推進

【にぎわい・出会い】

基盤整備では、区中心部の遠州鉄道鉄道線浜北駅周辺に市街地が形成されているが、郊外の開発が進む中、副都心としての機能集積が課題となっており、区民をはじめ、市民が集い交流することのできる求心力のあるまちづくりが必要である。

脅威 × 強み 回避戦略

大型商業施設の立地を活かした地域活力の醸成【にぎわい・出会い】

副都心の位置付けにふさわしい都市機能の充実と環境整備が必要である。

自治会・町内会の自治力や地域団体の組織力の強固さを活かし、都市化の進展や価値観の多様化による地域の連帯意識や相互扶助意識の向上【文化の創造】

豊かな自然環境や農業環境と居住環境の調和を図った環境整備（基盤、コミュニティ）が必要である。

鉄道利便性を活かした学術・研究機関の誘致【学術・研究】

立地条件を活かし、新たな産業育成、人材育成が必要である。

脅威 × 弱み 撤退・改善戦略

公共交通の整備の推進

【公共交通】

狭あいな道路が多く東西の道路整備や、郊外の市街化に伴う公共交通網の検討が必要である。

新たな広域道路網の整備に対応した産業拠点の整備が必要である。

市街地の骨格を形成する道路や生活道路などの整備充実が必要である。

鉄道駅の立地を活かしたまちづくりと公共交通の利便性の向上が必要である。

上述の環境分析から整理した各戦略、必要事項は、副都心を形成する上での方向性を示すものです。